

# 調査結果の概要

## 1 回答者属性について

回答者の結婚の状況について性別で比較すると、男性で「結婚している」の割合が高くなっています。しかし、性・年代別で平成 17 年度調査結果と比較すると、男性の 30 歳代の結婚していない人の割合は高くなっていることがわかります。

回答者の従事する仕事の状況について性別で比較すると、女性で「パートタイム・アルバイト」の割合が高く、女性に非正規雇用が多い現状がうかがえます。また、女性では、20 歳代で「正社員・正職員」の割合が約 4 割、「専業主婦・主夫」の割合が約 1 割となっていますが、女性の 30 歳代では「正社員・正職員」の割合が約 2 割と減少し、「専業主婦・主夫」の割合が約 5 割に上昇していることから、女性が結婚・出産などを機に就労を中断している現状がうかがえます。

## 2 男女共同参画社会について

男女共同参画社会実現のための取り組み、政策への関心の有無について平成 17 年度調査結果と比較すると、関心をもっている人の割合が低くなっています。特に前回調査結果では、女性の 20 歳代、30 歳代で関心をもっている人の割合が高く、約 7 割であったのに対し、今回調査結果では、女性の 20 歳代、30 歳代で関心をもっている人の割合は約 3 割から約 4 割となっており、若年層の関心の低下がうかがえます。

## 3 男女平等について

社会や生活の各分野における男女の平等感について平成 17 年度調査結果と比較すると、「社会通念・慣習やしきたり」を除くすべての項目で男性が優遇されていると感じている人の割合が低くなっているものの、男性が優遇されていると感じている人の割合は依然高く、「家庭生活の場」「職場」「社会通念・慣習やしきたり」「政治の場」「社会全体」などでは、男性が優遇されていると感じている人の割合が半数以上を占めています。特に、「社会通念・慣習やしきたり」では 7 割を超えており、男女平等ではないと感じている人の割合が高いことがわかります。

国における調査結果と比較すると、本市は「法律や制度の上」「政治の場」で男性が優遇されていると感じている人の割合が低くなっていますが、「家庭生活の場」で男性が優遇されていると感じている人の割合が高い特徴がみられ、今後は家庭生活の場において、固定的性別役割分担の見直しなどを積極的に進める必要性がうかがえます。

また、すべての分野において、男性が優遇されていると感じている人の割合は、男性より女性で高くなっています。

## 4 結婚観や家庭生活について

結婚や家庭についての考え方について平成17年度調査結果と比較すると、「結婚は個人の自由であるから、結婚しても結婚しなくてもよい」「結婚しないで子どもをもってもよい」「夫婦は別の姓を名乗ってもよい」で賛同する人の割合が低くなっています。

国における調査結果と比較すると、本市は「結婚しても、うまくいかなければ離婚してもよい」「結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」で賛同する人の割合が高くなっています。

家庭生活での男女間の役割分担については、「生活費を得る」こと以外の項目で女性が担当している人の割合が、男性が担当している人の割合を上回っており、特に「日々の家計の管理」「日常の家事」で女性が担当している人の割合が7割を超えて高くなっており、家庭生活や地域生活における役割を女性が多く担っている現状がうかがえます。

仕事と家庭についての女性の望ましい生き方について平成17年度調査結果と比較すると、「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合が高くなっており、女性の生き方として、結婚や出産を経ても継続して就業することを希望している人が増えてきていることがうかがえます。

しかし、現実には「結婚や出産を機に退職し、家事・育児に専念、その後再就職(パートタイム)」「結婚・出産後も仕事を続け、仕事と家庭を両立する」の割合は希望通り高くはなく、女性が希望するライフコースの実現に向けた支援の必要性が求められているといえます。

理想とする夫と妻の役割については、「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が約4割と最も高くなっています。しかし、性別で比較すると、女性で「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が高く、約5割となっているのに対し、男性で「夫が働き、妻が家事・育児に専念する」の割合が高く、依然、固定的性別役割分担意識が強く残っていることがうかがえます。

一方、「夫も妻も働き、家事・育児も二人で担う」の割合が、理想に比べて現実で著しく低いなど、理想と現実に大きな差があることがわかります。

働く目的について平成17年度調査結果と比較すると、「生計を維持するため」の割合が高くなっており、経済情勢の影響がうかがえます。また、特に女性で「生計を維持するため」の割合が高くなっています。

子どもの育て方について、女の子に望むことと男の子に望むことを比較してみると、子どもの性別によって期待されることに違いがあることがわかります。

介護が必要になったときに望む介護の形態については、「自宅で、家族による介護に加え、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」や「病院、老人ホームなどの施設に入所」「自宅で、ホームヘルパーやデイサービス等を利用する」などの割合が高く、介護保険制度におけるサービス利用の希望が高くなっています。

## 5 社会参加について

現在参加している地域活動については、女性で「趣味・文化活動、学習活動、スポーツ活動」「町内会などの地域活動」「老人会・婦人会・青年団活動」の割合が高く、男性では「町内会などの地域活動」「趣味・文化活動、学習活動、スポーツ活動」「祭礼活動」の割合が高くなっています。

今後参加したい地域活動については、男女ともに「趣味・文化活動、学習活動、スポーツ活動」「ボランティア活動」「町内会などの地域活動」の割合が高くなっています。

## 6 ドメスティック・バイオレンスについて

DVの経験について平成17年度調査結果と比較すると、被害を受けた経験がある人の割合が低くなっています。しかし、「恐怖を感じるほど、大声でどなったりして、言葉でおどす」「何を言っても無視をする」といった“言葉の暴力”や“心理的暴力”で被害を受けた経験がある人の割合は依然1割を越えており、“言葉の暴力”や“心理的暴力”も重大な人権侵害であるという認識を広める必要性がうかがえます。

DVを受けた際の相談先については、「家族・親戚」の割合が最も高く、公の相談窓口の利用意向が低いことがうかがえます。DVについては被害者だけでなく、その周囲にも被害が及ぶ恐れもあり、相談者が安全に安心して相談できる窓口の認知度を高める必要性がうかがえます。

## 7 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて

男女共同参画社会の実現に必要なことについては、「長時間労働を解消し、男女とも育児や介護のための休暇を取りやすい職場環境をつくる」の割合が約3割と最も高くなっています。

性別で比較すると、男性で「家庭の中で、性別にとらわれず個人を尊重する子どもの育て方をする」「学校教育の中で、性別にとらわれず個人を尊重する教育をすすめる」といった教育環境に関する割合が高くなっています。また、女性で「夫婦、パートナーの間に家事などの分担をする」の割合が高くなっています。